

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

台湾、外需は低迷するも内需指標に底堅さ(Asia Weekly (6/18~6/22))

~ニュージーランドは予想外の景気加速~

発表日:2012年6月25日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 西濱 徹(03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
6/18 (月)	(インド) 金融政策委員会 (レポ金利)	8.00%	7.75%	8.00%
	(現金準備率)	4.75%	4.75%	4.75%
	5月消費者物価 (前年比)	+10.36%	-	+10.26%
	(香港) 5月失業率 (季調値)	3.2%	3.4%	3.3%
6/20 (水)	(台湾) 5月輸出受注 (前年比)	▲3.04%	▲3.70%	▲3.52%
6/21 (木)	(ニュージーランド) 1-3月期実質GDP (前年比)	+2.4%	+1.3%	+1.8%
	(前期比/季調済)	+1.3%	+0.4%	+0.3%
	(香港) 5月消費者物価 (前年比)	+4.3%	+4.3%	+4.7%
	(台湾) 金融政策委員会 (政策金利)	1.875%	1.875%	1.875%
6/22 (金)	(台湾) 5月失業率 (季調済)	4.25%	4.20%	4.19%
	5月商業販売額 (前年比)	+2.02%	▲2.00%	▲2.36%
	5月鉱工業生産 (前年比)	▲0.21%	▲2.50%	▲1.78%
	(マレーシア) 5月消費者物価 (前年比)	+1.7%	+1.7%	+1.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾] ~輸出鈍化による生産下押しを受けて、雇用の改善は頭打ちしているが、個人消費は底堅い~

20日に発表された5月の輸出受注は前年同月比▲3.04%となり、前月(同▲3.52%)からマイナス幅が縮小した。前月比も増加しており、欧州向けは引き続き減少基調が続いているものの、中国本土や中国、日本向けの堅調が下支えしている。IT関連や自動車をはじめとする同国の主力産業のほか、衣料品などで受注拡大の動きがみられるなど、先行きの輸出を下支えすると見込まれる。

台湾中央銀行は21日、定例の金融政策委員会を開催し、政策金利を4回連続で1.875%に据え置く決定を行った。世界経済の下振れリスクが高まる中、足下の輸出鈍化を受けて、同国政府は5月末に今年の経済成長率の見通しを前年比+3.03%に引き下げるなど景気の足踏みは避けられない。他方、国際商品市況の調整や足下の景気減速などにより物価上昇圧力は後退しており、5月のインフレ率は前年同月比+1.74%、コア物価も同+0.65%に落ち着いている。政府も5月末、通年のインフレ率の見通しを前年比+1.84%と4月末時点(同+1.94%)から引き下げており、物価上昇のリスクは遠のいたと判断している。足下の国際金融市場の混乱による資金調達環境の悪化を受けて、銀行間金利はやや上昇しているものの、マネーサプライの伸びは堅調であることから、市中の資金供給量は潤沢と判断して政策金利の据え置きを決定した。なお、足下の不動産市況の調整に伴い高額物件関連で借入金比率(LTV)が上昇するなど、銀行経営を圧迫することが懸念されているため、中銀は一定条件の高額物件(台北市及び新北市で8000万台湾ドル以上、その他の都市で5000万台湾ドル以上の物件)に関するLTVを60%とする規制を課すことを決定している。

22日に発表された5月の失業率(季調済)は4.25%となり、前月(4.19%)から0.06p悪化した。雇用者数は前月比+0.2万人と34ヶ月連続で増加したものの、失業者数も前月比+0.8万人と3ヶ月連続で増加して

おり、足下の生産の伸び悩みなどにより雇用調整圧力が強まっている。輸出受注の底堅さは先行きの輸出を下支えすると見込まれるが、雇用改善の頭打ちは今後も続くとは予想される。

22日に発表された5月の商業販売額は前年同月比+2.02%となり、3ヶ月ぶりに前年比でプラスに転じた。前月比も+2.99%と3ヶ月ぶりに増加しており、うち卸売売上高(同+3.68%)は小売売上高(同+1.41%)を上回る伸びをみせた。なお、小売売上高は4ヶ月連続で増加しており、全体の伸びは必需品需要の伸びを上回っていることから、個人消費の底堅さは窺われる。

同日に発表された5月の鉱工業生産は前年同月比▲0.21%となり、前月(同▲1.78%)からマイナス幅は縮小したものの、3ヶ月連続で前年割れとなった。前月比も▲0.3%と前月(同▲0.3%)から2ヶ月連続で減少しており、外需の伸び悩みを反映して生産は頭打ちしている。輸出受注に底打ちの兆しは出ているものの、欧米をはじめとする世界経済の不透明感は燻ることから、先行きの生産も厳しい状況が続くと予想される。

図1 TW 輸出受注の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図2 TW 政策金利の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TW 台北都市圏の不動産価格(前年比)の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図5 TW 雇用環境の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 TW 小売売上高の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図7 TW 鉱工業生産の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[ニュージーランド] ～個人消費や外需は低調だったが、復興需要の本格化などにより景気は大幅に加速～

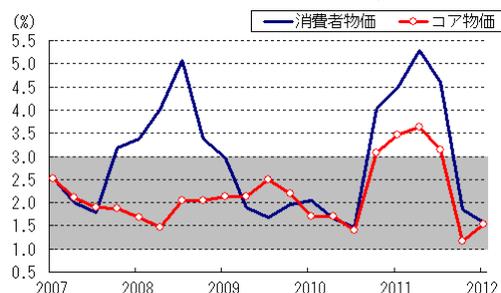
21日に発表された1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+2.4%となり、前期(同+1.8%)から加速した。前期比年率も+4.66%と前期(同+1.75%)から加速しており、2007年1-3月期以来5年ぶりの高水準となった。なお、世界経済の減速を背景に輸出は3四半期ぶりに前期比でマイナスに転じており、足下の雇用悪化を反映して個人消費も伸び悩んだものの、昨年春のカンタベリー地震からの復興に伴う建設投資の拡大や対内直接投資の堅調な流入により固定資本投資は大幅に拡大して景気を押し上げた。昨年11月の総選挙の前後に政府支出が落ち込んだ反動もあり、政府消費が拡大したことも景気を下支えした。先行きについては、建設需要の反動が予想されるほか、世界経済を巡る不透明感は輸出の重石になると見込まれるものの、足下では物価は落ち着きを取り戻すなど実質購買力の向上に繋がっており、個人消費をはじめとする内需が景気を下支えすると予想される。

図8 NZ 実質GDP成長率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

図9 NZ インフレ率の推移



(出所) CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア] ～食料品価格は上昇しているが、コア物価は減速するなど物価上昇圧力は落ち着いている～

22日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+1.7%となり、前月(同+1.9%)から減速した。食料品価格の上昇を背景に前月比は+0.19%と前月(同+0.00%)から加速したが、エネルギー価格は据え置かれているほか、足下では景気の減速懸念を反映してコア物価も落ち着いており、物価上昇圧力は後退している。金融市場の混乱に伴うリンギ安は輸入物価の上昇を引き起こす懸念はあるものの、足下では商品市況も調整しており、先行きも物価は落ち着いた推移が見込まれる。

図10 MY インフレ率の推移



[香港] ～失業者数の減少は続いて雇用は底堅い中、足下の景気減速を反映して物価上昇圧力は後退～

18日に発表された5月の失業率（季調済）は3.2%となり、前月（3.3%）から0.1p改善した。雇用者数は前年同月比+10.5万人と前月（同+10.7万人）から伸びは縮小する一方、失業者数は同▲1.5万人と前月（同▲1.1万人）から減少幅は拡大したことが影響している。金融市場の混乱は金融セクターなどを中心に雇用環境に悪影響を与えることが懸念されているが、中国本土経済の底堅さが下支えしている。

21日に発表された5月の消費者物価は前年同月比+4.3%となり、前月（同+4.7%）から減速した。前月比も+0.09%と前月（同+0.55%）から減速しており、食料品価格の上昇は続いているほか、エネルギー価格にも上昇圧力は燻っているものの、足下の景気減速を反映してサービス価格は下落しており、人民元相場の上昇一服で輸入物価の上昇圧力が緩和していることも、物価上昇圧力の後退に繋がっている。なお、2008年以降実施されている公営住宅の家賃減免措置による歪みを除いたベースでは前年同月比+5.1%となり、前月（同+5.6%）から減速しており、1年ぶりの低水準に落ち着いている。

図11 HK 雇用環境の推移

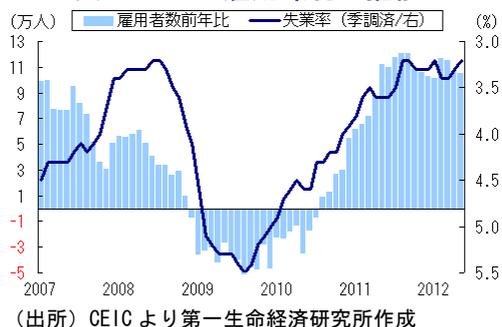
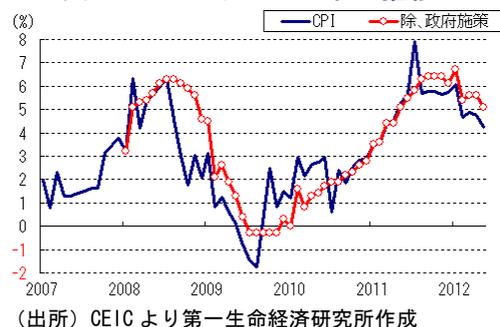


図12 HK インフレ率の推移



以上